

納本 29

11.2.29

特249  
149

# ソヴェート・ロシアの 対日工作を暴く

徹二著

定價十銭

1



0010252-000

特249-149

ソヴェート・ロシアの対日工作  
を暴く

桜木徹二・著

さんもん書房

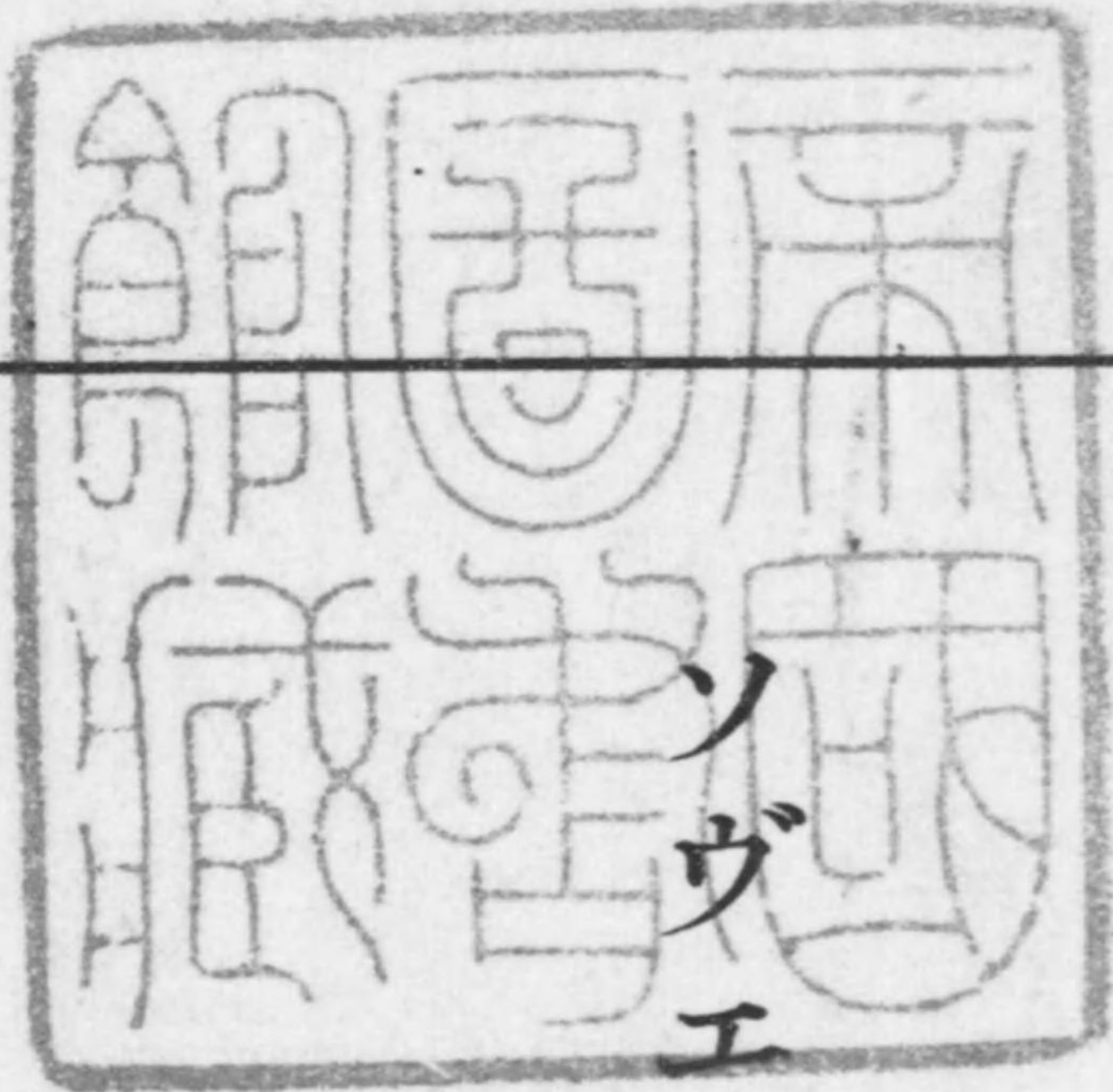
昭和11

ABJ

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法  
第67条の規定に基づき、平成12年3月2日  
けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです



特249  
149



櫻木徹二著

ソヴェート・ロシアの  
對日工作を暴く

さんもん書房





目次

序……………(三)

ソ聯の對日政策……………(五)

滿蒙會議の意義……………(八)

外蒙に動く蘇聯の魔手……………(一〇)

内蒙古の情勢……………(一三)



ソ聯軍隊の現有勢力……………	(一四)
極東に待機中の三十萬の精兵……………	(一七)
金廠溝事件の全貌……………	(二〇)
コミンテルンの陰謀……………	(二六)
ソ聯新聞の不遜なる論說……………	(二九)
歐洲に於ける日ソ問題の觀方……………	(三三)
何故ソ聯は躍るか……………	(三四)

# 蘇聯の對日工作を暴く

櫻 木 徹 二

## — 序 —

『世界革命は極東において決せらる』

此の言葉は現ソヴェートロシア建設の祖レニンの遺訓である。

ソヴェート聯邦政府はこのレニンの遺訓を金科玉條として、着々として歩一歩とこれに向つて進めつゝある。しかして極東政策に關する限りソヴェート政府の方針は帝政時代のロシアが



採つた政策と何等變る處がなく、それ以上に積極性を持つてゐると傳へられてゐる、去る一月の中央執行委員會におけるソヴェートの豫算についてグリニコ財務委員長は歐洲並びに極東に於ける情勢に鑑みて國防軍事費がいちじるしく増加せられた旨を述べ、又モトロフ執行委員會議長もそのやむを得ざる點を力説して委員一同の賛成を得て、拍手裡に總豫算を可決した。

即ちこの中央執行委員會に成立した一九三六年度のソ聯邦の總豫算は八百七十五億ルーブルで、その中軍事費は百四十八億ルーブルを占め、前年度に比較すると實に六十五億ルーブルの激増ぶりであつて四割六分の増加を示すといふ大膨脹である。

最近ソ聯邦が如何に軍備の充實に留意し、極東の防備に専念し如何にレニンの遺訓の實現化に向つて邁進しつゝあるかはこれによつても看取し得られるではないか。

しかも最近ソヴェート軍隊の滿洲國越境、ソ聯飛行機の侵入等の問題は日を追ふて盛んになり、日、滿、蒙、ソ國間の交渉はこの越境事件を繞つて正に極東の危機を醸成しつゝある。

『萬國の労働者よ團結せよ！』と絶叫しつゝ、全世界革命に向つて働らきかける彼ソヴェー

トロシアが、現在先づ何を目標して行動しつゝあるか？

我等はこゝにソヴェート政府極東防備の現況と彼等の東方政策を検討することによつて、我國民の注意を喚起することが我々當面の問題であることを信ずる。

## ソ聯の對日滿政策

ソ聯政府とは一心同體とされてゐるコミンテルンは昨年（昭和十年）七月末から約一ヶ月に亘つてモスコーに大會を開催したが、日本及び支那に關する決議においてエルコリは左の如く報告してゐる。

『ドイツ及び日本の戦争準備並に資本主義國の武装強化に鑑み、共産黨の中心スローガンは平和のための闘争であり、ドイツ並に日本に對して力を集積することはコミンテルンの最も重



大なる戦術である、共産主義者は植民地及び反植民地における民族解放闘争を支持し、殊に日本その他の帝國主義者及び國民黨(支那)に對する支那紅軍の闘争を極力支援せざるべからず、支那共産黨は民族解放の戦線を擴大し、全民族をこれに誘致し以て日本その他帝國主義者の侵略を斷乎排撃すべし』

此の外、モロトフ氏の演説は口に不侵略條約の締結を説きつゝ、その實我國が應ぜざるを理由として益々ソ滿國境における兵備を固めんとするものであり、トロヤノフスキー氏の言説は明らかに表面目、ソ、滿國の和親を口にして、その實は東方計略の必要は我國の不信なるかの如く國境防備の止むを得ざるの責任を我國に轉嫁せしめんとするものであり、更に第七回コミンテルン大會の決議中滿洲國及び日本に最も關係あるものとしての特色は植民地及び半植民地諸邦殊に支那における反帝國主義的統一戦線の提唱である。

支那の反帝國主義戦線統一は専ら反滿抗日を指標としてゐる、コミンテルン及びソ聯共産黨は一九三一年九月以來、日滿提携については極力これを阻止することに努め、その後に来る對

支政策を目して新に支那分割のはて、第二世界大戦争の端を開き、且つ將來の對ソ戦争の作戰根據地を準備するもの猜疑彌縫して來たことを觀ると、支那に於ける反帝國主義統一戦線及び國防確立人民政府の建設、即ち表面コミンテルンのいはゆる反戦ファシズム及び資本主義の闘争ではあるが、その實は極東の新情勢に應ずるソ聯政府の新ソ支聯盟策と見なして差支へない。

即ち支那ソヴェート地域の擴大強化によるソ聯自らの前衛防禦策である。しかしてこの戦術の實現と共に今後益々支那に於ける共産黨その他國民黨系の抗日運動と、滿洲國內抗日運動との聯絡強化を試みるべく、且つ從來のバルチザン運動の外、勤勞者、一般民衆の宣傳に一層の拍車をかくべく計畫を進めてゐるのである。



## 滿蒙會議の意義

滿洲國境の不安状態は今日始つたわけではないが、昨年の十二月以來外蒙兵の越境事件以來滿蒙國境に於ける兩國軍の對立は日に増し激化しつゝある。

而して外蒙兵と蘇聯邦との關係を考へると滿蒙國境問題は結局蘇滿國境問題の一斑たることに疑ひはないのである。滿洲國政府は國境地帯の平和維持確立といふ問題に關して昨年中は凡ゆる努力を拂つたのである。

即ち昨年五月卅日以來滿洲里において外蒙側代表と會合協議を重ねたところの例のハルハ事件を中心とする滿蒙會議は、スツタモンダで遂に十一月廿五日を以て決裂した。その原因は滿洲國側が國境紛争處理のため、國境地帯並に新京、ウランバートルに代表交換常置を主張せる

に對し、外蒙側は單に國境地帯にこれを駐在せしめれば足るものなりと主張して止まず、兩國間に妥協點を發見し得なかつた爲めである。

由來兩國間の感情は對立し、昨年末以來蒙古兵の越境は全く滿蒙會議決裂の影響かと想像せられてゐたのであるが、昨年末突如外蒙首相ゲンダン氏、同陸相デミト氏は突然蘇都モスクワを訪れ、クレムリン宮においてモトロフ人民委員長と會見、スターリン黨書記長、リトヴィーノフ外務人民委員長等に面接大歓迎を受けた事實が、滿蒙會議決裂後間もなきことであり、その後に於ける外蒙側の態度に徴しても果然日滿兩國の注目を惹くに至つたのである。

右外蒙代表の蘇都訪問が如何なる結果を齎したかは、相手が蘇聯邦であるだけに、知る由もないが、兩國間には軍事同盟成立説さへ傳へられてゐる。



## 外蒙に動く蘇聯の魔手

滿洲國の誕生によつて南進政策を阻止された蘇聯邦は、その打撃を如何なる方面に轉廻したのであらうか？

滿洲國東部國境に對し、防備を固め、特に浦塩の經營に主力を注いでゐるが、外蒙との聯繫強化は東部防備政策の變更と見るべきであらうか、注意しなければならぬことである。

蘇聯の外蒙に對する工作は既に一九二六年以來のことであつて、今日では外蒙の政治經濟上の凡ゆる施設は完全にソヴェート化され、殊に兩國の關係を強化すべき必要は更らに認められないのである。それどころか蘇聯邦は外蒙を足掛りとして支那に手を伸ばしてゐる、既に新疆の獨立化には成功し、今、陝西、四川方面にまで赤化工作を擴大してゐる、要するに外蒙方面

にはこれといふ不安はないのであつて、蘇聯邦の赤化工作によつて迷惑を被つたのはむしろ支那側である。

この時に當つて北支には民衆自治運動が勃發し、冀東、冀察の兩自治政府は南京政府の黨治主義を排すると共に蘇聯の赤化工作を防止すべく所謂「防共」を政綱の中に掲げるに至つた。

一方我國は支那側の執拗な抗日にも拘らず、日支共存共榮の大原則に立脚して對支親善を促進せんとして居り、これが具體化の一方策としては、支那を赤化の魔手より解放することが第一條件であるといふ見解のもとに行動してゐるのである。

元來蘇聯邦の南進政策は、帝政ロシア以來の永い傳統の上に立つてゐるのであつて、日支親善が完全に實を結ぶのであるならば、蘇聯の對支工作即ち南進政策は完全に阻止される結果となることは明らかであらう。

要するに日支提携の進捗は、日滿支防共ブロックの擴大強化であつて、蘇聯側からすれば南進工作遂行の建前上何とか右に對抗する手段を發見する必要に迫られてゐるわけである。



滿洲國の西部邊境地方たる内蒙古と外蒙古自治共和國とは同民族の關係にある、蘇聯側はこの點に着目して先づ外蒙との結合を強化し、これを單位として反防共ブロックの建設を目指し、蒙古民族結合運動に乗り出しつゝあるのである。

## 内蒙古の情勢

こゝに於て、近頃獨立運動によつて生氣潑刺たる印象を吾人に與へつゝある内蒙古の情勢を一瞥する必要がある。

その獨立問題を繞つては、一方ソ聯、外蒙及び四川省甘肅省を席捲せる中華紅軍を繋ぐ赤色の一大連繫と、滿洲國、日本、南京政府を一連とする防共の一線とが對立し、この間にあつて漢民族の支配（南京政府）より脱して自治による蒙古人の獨立を策せんとする徳王及び李守信

があり、これに機先を制せんとして反徳王派を懐柔せる南京政府との抗争等があり、洵に興味深い動きを潛ませてゐる。

内蒙古は現在既に自治制の上にある。しかしそれは外蒙古、及滿洲國の獨立にならつて内蒙古が獨立を圖らんことを怖れての南京政府の苦肉の策といふが至當かも知れない。

故に内蒙古にあつては、今尙激しく、漢民族の支配から脱せんとする氣運が濃厚で、内蒙古自治制務委員會祕書長たる徳王が素晴らしい威望を持つて内蒙古人の信頼を得てゐるのも、内蒙古獨立の願望が彼によつて達せられんかとの夢なのである。

既に徳王は似而非なる内蒙古自治を蹴飛ばして、より高度の自治獲得、即ち内蒙古の獨立によつて南京政府の羈絆を脱せんと活躍を開始し、その實力には實に侮れないものがある。

一九三三年内蒙自治通電を發してより、一路獨立に邁進せる徳王は今や威勢益々加はり、察車警備司令官李守信の武力と合して隆々たる情態にあり、南京政府が綏遠省政府主席傅作義等を動かして、最近綏遠各盟旗自治政府委員會組織辦法を公布するに至つたのも一に徳王一派の



自治獨立即ち自治獨立の運動を阻止するにあつたのである。

中國共產黨の意圖によれば内蒙共產黨の各盟旗を一律に共產軍に歸屬せしめ革命政府を樹立せんとする意圖らしく、而も事は緊急に迫つてゐる。

内蒙古に於ける共產軍勢力の擴大如何は、直ちにソ滿及び外蒙滿洲の兩國境問題に影響すること甚だしきは論を俟たない、これ等國境問題が内蒙古人心に及ぼす影響は大なるものがあり、以て共產軍の活躍に如何なる利益となるやも測り知れないのである。

## ソ聯軍隊の現有勢力

今やかくてソ聯邦の極東に對する關心は西歐に對する工作を無視しても、レニンの遺訓を尊重してこれが一日も早く具現せんことを急いでゐるのであつて、これに對する軍備、産業、交

通上の施設は恐るべき速度を以て着々として進行しつゝある。

ソ聯の有する軍隊の總數は現在百三十萬に達するといはれて居り、この恐るべき赤軍の兵力は全世界に於ける最も恐るべき世界第一の兵力だとされてゐる、しかもその内容に至つては優秀なる飛行機部隊、他國にその類を見ない機械部隊を有し、更に最も進歩した科學化戰術を以て、彼等が企圖するアジアに於ける世界革命に向つての第一戰に備へんとしてゐるのである。

ソ聯軍事委員長ヴォロシロフ氏は十六回ソ聯革命記念祭の當日モスコのレニン廣場において優秀を誇る赤軍の大行進を檢閲して、

「今や世界の情勢は益々緊迫せる際、一層軍隊諸子の健闘と自重を望む」

旨を叫んで彼の面前に現れては消え去る爆撃機、タンク、重砲隊、機關銃隊、騎兵隊等々の勇ましい行進にいと満足な意を表したといふ。

モロトフ氏が號令する百三十萬の赤軍兵力はこれを全露に十軍事區に分割し、更に各軍事區を地方軍事區に小分割し、恰も行政區域の如くに分割統制されてゐるのである。



大軍事區は西部（歐洲方面）に五十二歩兵、十一騎兵師團を有し、この他獨立騎兵二旅團があり、東部（極東方面）は歩兵三十二、騎兵五師團の外に獨立騎兵四旅團を有してゐる。

而してソ聯の歩兵隊には二萬の輕機關銃と、一萬二千の重機關銃と、八百の塹壕モーターと、千六百の歩兵砲を有し、騎兵隊は機關銃と騎兵砲を持ち、機械化兵團は時速百キロメートルを飛び得るといふタンクあり、その空軍は一九三四年において四千三百臺、一九三五年には五千臺に達するといふ飛躍ぶりである。

右の總兵力と日本のそれとを左に比較してみんか驚異と云はずして何と云はう。

△日本 總兵力 二十五萬（十七ヶ師團）

△ソ聯 總兵力 百三十萬

（歩兵、正規兵三十五師團、民兵約五十師團）  
（騎兵、正規兵約十五師團、民兵五師團）

### 極東に待機中の三十萬の精兵

斯くの如き現有勢力のソ聯が特に意を用ふる極東方面にはブルツヘル將軍を極東軍司令官に任じ、その旗下に三十萬の精銳と彼の命令一下に動員し得られる準備を進めてゐる。

その軍隊の中には

騎 兵——十五萬

歩 兵——二十萬

重 砲——五十

野 砲——百

輕タンク——四百



重タンク——數臺

機關銃——四千乃至五千

飛行機——四百乃至五百

等があり、これをソ聯の極東軍隊増強前の兵力に比較すると、四倍乃至五倍といふ急激な膨脹振りである。外にケメロフには恐る可き毒瓦斯を製造する軍事工場が置かれて、化學戦に備へてゐる。

海軍の軍備は未だ優秀と稱し得ざるも、浦鹽の附近にあるボシエツトには海軍根據地を設置して戦艦六千トン級三隻、巡洋艦一隻、假裝巡洋艦三隻、驅逐艦四隻、潜水艦十隻の外に飛行機八百臺を持つて、一旦有事に際してその防禦を完からしめんとしてゐる。

且つソ滿國境における防備の堅牢無比なることは既に知られてゐる處であるが、そのトーチカと稱せられるものは鐵筋コンクリートの數尺の厚さを以て圍まれ、内部には僅かに二、三人を容れ得るに止まり、内部に機關銃を裝置して外部からは窺知し得ざる様隱蔽してあるから、

戦時に際してはトーチカの活躍は非常に期待されるところであり、反對に敵軍の飛行機から爆撃される、恐れ少なく難攻不落と稱せられるこのトーチカが幾千となく國境に設けられて黒龍江をへだて、滿洲國々境をへいげいしてゐるのである。

何が不侵略條約締結であるの、日滿兵の撤退要望であるのと、叫ばざるを得ないではないか。

更に傳へられるところによれば、西比利亚鐵道の軍事化が昨今全線に亘つて完了し、現政權主スターリンの片腕と稱さるゝ交通人民委員カガノウイチは、最近ウラヂオストック、ヴオロシロフ等のシベリア沿線を視察して、右の軍事化を指令したと傳へられるのである。

この軍事化はその内容として、

(一) 西比利亚鐵道極東各線の従業員は、共產黨員を除いて悉く引上げしめて、代りに訓練されたる陸軍鐵道部隊を置く。

(二) チタ市に鐵道部隊本部を置く。



右の如き軍事化が若し事實とすれば、蘇聯邦は、その極東戰略の動脈西比利亞線に、戰事的衝突切迫せりと指令したと同様である。

日夜の匪賊討伐事業、そのものにさへ奔命し疲れつゝある貧弱な日滿軍を對照に、如何なる必要あつて、將又如何なる脅威を感じてか、かく積極的攻撃陣の強化に努むるのであらう？

## 金廠溝事件の全貌

去る一月三十日、滿洲國密山縣と蘇聯との國境地帯金廠溝↑シシヨウコウの東南地區に於て蘇聯の正規兵を加へた兵匪が大部隊をなして、滿洲國領内に深く侵入して來り、折角同方面の警戒に當つてゐた日滿兩軍の爲に發見せられ、激戰の後遂に國境外に擊退せられた。

其の後反撃の恐れありとして一部の部隊を割いて、日滿軍は同地に殘留駐在して目下嚴重に

警戒中であるが、一方該事件に關しては露國側は滿洲國軍が露國に不法侵入したものであるといひ、日滿側は飽くまでも事件が滿洲領内で行はれたものであり、その非は蘇聯側にあることを主張して今日に及んでゐる問題なのである。

此の事件は尙その以前、即一月二十九日のこと滿洲國密山國境監視隊の一部百餘名が兵變を起し蘇聯領域内に逃亡した事件がある。

滿洲國外交部ではとりあへず、綏河外交部辦事處より、蘇聯當局に該遁入兵の引き渡し方を要求したが、兵匪中に蘇聯の赤衛兵が混入してゐた事實があり、兵變を煽動した實證も擧つてゐるので、一日ハルビン駐在の施履シリヤ本外交部北滿特派員よりハルビン蘇聯總領事スラウツキー氏に對し嚴重に抗議し、改めて遁入兵匪の引き渡しを即時要求した。

右二つの事件は近來いよく露骨味を増した蘇聯の態度を明確に示すもので、以つてやがて來らんとする兩國間、否、日本對ソ聯間の國交上の暗雲を物語るに十分のものであらう。

金廠溝事件に於ける日滿兩軍の損害については關東軍は左の如く發表した。



## ◇満軍

戦死二名、負傷二名、凍傷患者は相當の數に上る見込み。

## ◇日本軍

戦死十名、負傷十名。

## ◇敵の損害多數の見込み

捕獲品として露式小銃一、彈藥盒二、手榴彈一、帶劍一、防毒マスク一、その他ソ聯兵の死體一。

蘇聯側は右事件に對する滿洲國側の抗議要求を無視せるのみならず、却つて威嚇的言辭を弄する有様である。

又右の紛争解決が少しも緒につかざる折柄またく外蒙兵は我が數次の友誼的抗議を無視して何等反省するところなく益々増長して挑戰的態度を濃厚にし、西部滿蒙の情勢は次第に險惡の度を増してゐる。

滿洲國軍當局は右について左の如く發表した。

- 一、オラホトク方面に於ては十數名以上の有力なる斥候が白晝堂々と滿洲國領内に不法越境し來たること屢々にして傍若無人を極めたり。
- 二、ハルハ廟方面には最近新たな有力部隊が國境に増加した模様で、外蒙斥候は夜間我が配備の隙間から不法越境し、我が背後の捜査に努めてゐる。蘇聯の魔手がこれらの背後に蠢動してゐることは明らかに判明し居れり。今後國境附近にて如何なる事起るも、皆外蒙と蘇聯のこの國際道義を無視せることに因るものとす。むしろ速かに外蒙が過去を反省し平和的交渉をなすべきことを、國境附近住民は願ひ居れり。

此の滿洲國側の抗議聲明は極て穩當且正當の事で、衷心から國際道義をわきまへたる配慮たることは、以て外蒙、蘇聯をして反省さすに十分の好意を見せるものであるが、現在の蘇聯、外蒙は好んで事を爲さんとするものであるから、大處高處から論ずる滿洲國側の聲明に決して耳を傾くるものにあらざるべく、却つて斯うした一見軟弱に見ゆる態度は、敵をして益々圖に



乗つて、不法行爲を敢てなさしむる結果に到るのではあるまいかと識者は憂慮せざるを得ない。

蘇聯及び外蒙は前述の如く強化せる赤衛軍及び空軍その他の實力に餘程の自信あるもの如くであつて、金廠溝事件を楔機として益々表面化した蘇聯の對滿日抗爭は次第に擴大されつゝある。

該事件によつて劇しい抗議に會つたソ聯は、何等反省することなく、外蒙と提携、これを使喚して益々抗日的態度を強めつゝある。

滿洲國外交部の調査したところによれば、ソ聯邦軍部は、過般の紛争地ヘルモト附近にあつて國境線を侵犯したまゝその附近に散兵壕を築き、一月二十三日より約一ヶ月間同地一帯に軍用機を飛ばして地形の偵察を行つた。

金廠溝事件によつて明白になつた、蘇聯の眞意が國境問題にからむのみのものであるとすれば、左程に重大視する必要はないかも知れないが、一度今次の國境問題に於て彼の不法なる方

法が成功するとすれば、今後益々惡辣極まる態度に出でんとすることは明白である故、飽くまでこの最初の交渉以前に於て日滿の協力による實力を發揮しなければならぬ。

去る一月末露國軍用機一機が東部國境饒河附近に不時着して匪賊に捕はれた事件があるが、その目撃者について調査したところによると、同機は共匪の巢窟地帯に着陸し、しかも不時着地域は理想的な飛行物になつてゐること、不時着と同時に搭乗者は、その地方に蘇聯國人を求めて、馳せつけた匪賊の中の露人が同機より機關銃彈藥を受け取つたこと、及び不時着の行動には奇怪なるものがあり、匪賊の煽動に飛來したとの疑ひが濃厚である。

此の項を終るにのぞんで、金廠溝事件について、ソ聯の例の逆宣傳を我が關東軍當局が痛烈に反駁したことを特記しなければならぬ。

「金廠溝事件に於てソ聯側は日滿軍の兵器裝具を鹵獲したと公表し、以て日滿軍越境の證據たらしめんとするが、右に關し關東軍では日滿兩軍にわたり綿密な調査をなしたところ、一物と雖遺棄した物はなく、ソ聯側が匪賊から入手した武器を以て金廠溝事件の鹵獲品の如く



装つて見え透いた欺瞞手段を取つてゐるのは、ソ聯側が今次の事件でソ聯兵の死體及び防毒面など越境證跡を残したことを繕はんとする窮餘の策なることは明白で、例の匪賊援助、越境等の不法行爲を自ら告白してゐるものである。

### コミンテルンの陰謀

ソ聯の對日滿政策は大要前述の如くであるが、こゝに併せて一應彼等の對支政策を解剖して置くことが必要である。

一昨秋蔣介石が共産軍討伐に自ら兵を率ゐて、四川、貴州、雲南に赴き、各省を自己勢力下に統一し、一方對西南工作をなしたとは云へ、それは唯名目だけの改組に過ぎず、邊境の情勢は益々中央離反の現状であり、且つ新疆省のソヴェート化は急速なる進歩で、南京政府の命令

は何一つ行はれず。「盛世才の傭兵」といふ名目に依りソヴェート正規兵三萬餘が堂々と省内に布陣し、軍器、軍需品の一切はソヴェートから運ばれ、各機關は其の統制下に活動してゐる。有様である。

四川、甘肅に於ける共産軍の活動の進捗と共に今後如何なる役割をなしてゆくか、共産匪の恐怖下に慄く支那明日の運命は何うなるか、洵に寒心に堪えないものがある。

第七回コンミンテルン世界大會に於て終始一貫して各國代表の演説中に強調されたのは、支那に於ける共産黨、紅軍の擴大強化、ソヴェート區住民の増大、これに關聯して南京政府との抗爭、更に日本に對する反帝、反戦活動の鞏化問題で、支那問題に關する限り、必ず日本が問題となり、就中支那代表王明のなしたる演説中、彼は近き將來に於て紅軍正規兵百萬人、ソヴェート區住民は一億萬人に達するであらうと語り、現在支那共産黨は五十萬を算するに至つたと誇稱してゐる。

斯く邁進しつゝある彼等と相俟つて、ソ聯邦は既に東部地方の開拓に遠大の計畫を樹立し、



これが實現化に日夜の努力を傾倒してゐる現状である。

東亞に於ける、從來不毛の地、流刑の地として捨て、省りみられなかつた諸地方が俄然その死藏されてゐた豊富な資源を基礎とし、今や産業工業の一大中心地として更生の道を辿りつゝあるのであるが、これがソ聯邦に對して一大利益を齎すべきことは勿論であるが、隣接國たる日、滿兩國に與ふる影響は頗る甚大なものがある。

帝政ロシアの東方進出政策と革命後ロシアの東方進出政策との間にはその含む意味に於て其間に天地もたゞならざる深刻なる開きがある。

東方に單に不凍港を求めて南下侵出の手を進めて來たのが、要するに帝政ロシア時代の東方政策だつたのである。が現在のソ聯邦政府の東方政策は更に遠大なるプランと深刻な意圖を含んだ本格的なものであつて、文化的、産業的、軍事的にも計畫は前者と比較すべくもない。

茲に於てソ聯コミンテルンの活動と共に、雪の荒野たりシベリヤが、或は胡沙吹く風の外蒙古が近き將來に於て大工業地帯となり、着々彼等が目的の達成に進軍するを惟ふ時、我々と

して大きな威壓と迫力と不安を感じずには居られようか？

かつて佛蘭西革命が、ロシア革命が歐洲で演じた役割を極東に於て再び演ずるの日あるを憂ひ、赤露の魔手に慄く支那を憂ふる時、極東平和の鍵を握る日本はこれが善處に奮起せねばならぬ。

△ソ連

### ソ聯邦新聞の不遜なる論説

「國報」

既に讀者諸賢の御存じの如く、ソヴェートの新聞は、日、英、米その他の新聞の如く、自由な立場にあるものではない。

有名な「ブラウダ」紙或は「イズヴェスチャ」紙等總べて完全に露國共產黨の手によつて指導され、編輯されてゐる。



従つてこれらが發表する論説は、直接露國共產黨●本來の意見、主張、又は見解を表示するものとみるべきである。

ソ満國境紛争問題に關し、昨夏ソ聯新聞は次の如き激越な語調を以て社説を掲載してゐる。

△イズヴェスチャ紙（七月二日）

「國境の紛争は在滿軍部が東支問題解決後の日蘇間平和通商關係を破壊せんとして之を起すものであるが、我官民は勤勉なる日本國民との平和關係を切望するが故に、日本出先軍憲の行動には斷然抗議し、日本側に於て結局平和政策と理性とが勝利を占むべきを期待する。」

△ブラウダ紙（七月二日）

日滿官憲は蘇聯側が極東に於て日滿正規兵より成る挑發團を紛碎するに足るの實力あるを知らぬ譯ではあるまい。果して然らば近年行はるる國境紛争なるものは、日本軍部が蘇滿國境に於て更に重大なる衝突を起さんが爲計畫的に行ひつゝあるものと見るべきである」

更らに七月五日、イズヴェスチャ紙は、蘇聯が日本になした筋違ひの抗議に關し、大要左の

如く外國新聞の論評を掲げて民衆に反日熱を吹込んだのである。（民衆は他に何等の新聞も知らないのである。）

(一) 倫敦ニュース・クロニクル

「右は日本外務省に提出されしものなるに付同國陸軍省は何等承知せずとも報ぜられるが、斯かる政策は重大なる結果を招くであらう。即ち軍部が蘇聯側をして最後通牒を出さしむるが如き行動をなし、外務省は手遅れとなる迄之を知らずと言ふこともあり得やう。」

(二) 巴里エール・ヌーヴェル

「蘇聯は北支問題に對しても冷靜で、今次國境侵犯に抗議せるに止り、蘇聯側新聞も此の種事件の終熄を希望した。吾人は右希望の裏切られざるを信ぜんとする。蘇聯としても日本の膨脹を無關心に傍聽せぬであらうから。」

更らに其の後ブラウダ紙は「日本軍部の對蒙挑發」と題する社説を掲げ、

「(滿洲國境事件及滿洲里會議經過概要を述べた上)これ等の事實は日本軍部が嘗て滿洲、



熱河に對して行ひ又現に北支に於て行ひつゝ、わる所を蒙古にも及ぼさんとするもので、彼等の奪掠慾は底止するを知らず、益々危険な冒險を敢行してゐるが、彼等冒險者流の自滅すると云ふ事もあり得る。」  
と激越極まる論調を展開してゐる。

## 歐洲に於ける日ソ問題の觀方

ロンドンの有名なデリー・テレグラフ紙記者の防露記事によれば、ソ聯邦は一九三一年に於ては、もし極東に戦端が開かれた場合にはウラジオとシベリヤ鐵道を放棄して西方に退却する豫定であつたが、一九三四年にはシベリヤ鐵道を死守してウラジオは放棄しない方針に變更された旨を傳へてゐる、如何に彼等に自信の加りつゝあるかが窺はれよう。

これによつても明かな如く、ソ聯は五ヶ年計畫の完成によつて、あるひは防備の進捗につれて、東方に對する熱意は加速度的に増進しつゝある、ソ聯がこの態度を變へざる限り今後一層日、滿、ソ國間のトラブルは繁劇を加へることゝなるであらう。

又歐洲に於ては日獨軍事同盟説がまことしやかに傳へられ、日蘇關係は今や開戦の前夜に立つものの如く想像されてゐる。これは列國の眼を日本に向けさせ日滿支三國關係に水を注ぐんとする第三國の策動としか思へないが、最近に於ける蘇聯と外蒙との關係と併せて右の風説にも注目を拂はなければなるまい。

わが國は東亞の安定勢力として獨自の立場にあり、現在他國と軍事同盟を締結する如き必要は何等認められないのである。

不脅威不侵略の鐵則を持つるわが國に軍事同盟とは、見當違ひも甚だしい。

否、昨秋英國の經濟使節サー、フレデリック、レース、ロスが支那を訪れたが、那邊にその訪支の意圖があつたであらうか、極東外交問題に關して積極的な新方策樹立の目的のため訪れ



たものであることは事實である。

即ち極東の新情勢の進展と日本の脅威的勢力の増大による極東に於ける英國勢力の失墜は最近顯著なるものあり、極東、主として支那の現状が英國をして策動の好機を把握させる結果となつたのであると同時に支那に於ける宋子文等其の他歐米派の親日派に對する牽策等相俟つて英國の對極東政策を積極化したものと云へよう。

而してこの種の對支政策が今後も引續き列國に依つて企圖せらるゝとせんか、東亞の平和を國是とする吾人にとつて全く看過することの出来ぬものがあらう。

### 何故ソ聯は躍るか？

斯くて連日外電は滿ソ國境の紛争を報じてゐる、我々をして遂に來るべき所へ來たと云ふ感

を深からしめるものがあるが、然しその時期の餘りも早きに一應は惑はざるを得ないであらう。

我々はこゝにソ聯は何故躍るか再びその眞隨を極める必要がある。

世界大戰の最中に、現在の共產黨の前身であるロシア社會民主黨が「平和とパンを與へよ」といふスローガンの下に労働者、農民を結合して樹立した現在のソヴェート政府の外交政策は前にも少しく述べた如く、名實共に「平和政策」であつた。

だがこの平和政策なるものは、さう云ふ社會主義的道德の上からのみ割り出された理論的な平和政策ではなくて、ロシア自身平和政策を執らざるを得ない結果となつたからである、この點にも彼等一流の宣傳が利いてゐると云はねばなるまい。

即ちこの對外平和政策を決定してゐる主要な原因は、スターリンの「一國家社會主義建設」のために強行されてゐるソヴェートの社會主義建設、特に第一次、第二次五ヶ年計劃の遂行の爲めに執らねばならなかつたのである。



現在のソヴェート首脳部の考へてゐる所を綜合すれば、ソヴェート・ロシヤは世界に只一つの社會主義國家である。だからソ聯を圍繞してゐる資本主義各國から常に壓迫を受けると云ふ危険に曝らされてゐる。政府首脳部にとつてこれ程危険なことはない。若しソヴェート政府の國力が強個にならない中に、周圍の資本主義列強によつて攻撃される様なことがあつたならば折角誕生したばかりの社會主義政權が一舉に崩壊する恐れがある。

斯うした不安の下に彼等は、かゝる危険を避けて、他から侵略されない、又萬一侵略されても反撃を加ふるに足る、強個な社會主義國を一日も早く建設することが、彼等にとつて一大緊急事なのである。そしてそれだけの實力を具備する迄の間、どこまでも平和を確保し、戰禍に巻き込まれない様にすることがソ聯政府にとつての對外政策の根幹なのである。

最初に自國の經濟的及び政治的なる力を發展させるため、又衷心から平和の維持を望む労働者大衆を精神的に維持してゆく爲め、又平和を望んでゐる諸國と通商關係を發展させたいと望む爲に執つた政策である。

要するに、資本主義との一時的平和關係の期間、レーニンの「息抜き期間」を出来るだけ長くし、その期間内に社會主義建設を完成して、自國を強大となし、資本主義諸國との最後の決戦をなす準備をするといふ點をキー・ポイントとして躍るといつていゝのである。

最近に於けるソ聯の對外政策（前述の對極東政策の諸情勢の如く）程微妙なものはなく、その神出鬼没の策動は全く外交史上にもその例を見ない程鮮かなもので、外務人民委員長リトヴィノフの手腕もさることながら、流石社會主義國の理論家中の理論家を集め、智者中の智者を集めた一種のブレイン・トラストの觀ある現ソ聯政府の頭の上さを示して餘りあるものと云はねばなるまい。

更に又この列強との勢力均衡を計つて戰爭の危機を防止すると共に、他方コミンテルンの手を以つて、直接間接に赤化工作の比較的成功し易い本國から遠い殖民地の自治獨立運動及び赤色運動を支援したり、その革命運動に資金を提供したりすることにより、その國內の紛争を起させることに依つて當該國の對ソ戰爭を牽制しつゝ、強大な資本主義國の自然的崩壞の途を辿



らせつゝあるといふ洵に一石二鳥の外部工作を劃しつゝあるのである。

四〇

その具體的な現れの最たるものとして前記支那東邊境の赤化、蒙古の獨立運動、及び今回の滿洲國境の越境問題等あり、更に南して印度の革命運動支援、アメリカ、日本等國內共產黨の支援等と列擧出来るのである。

戰國時代の武將は、その野望達成の爲めによく近攻遠交策を執つた。だが今日のロシヤは全くその反對の遠攻近交策を執つてゐる。

歐洲には最早ソ聯の赤化隱謀策は成功しないと見て、(ヒットラー、ムツソリーニの獨裁政權、フランス・ブロツクの緊密化、英國の反動化等の爲めに)寧ろこれらの諸國を刺戟するよりは東方の比較的軟弱な地帯を蠶食せんと目的から、先づ英國及び佛國との緊密な關係を結び、獨逸の神經にも觸れないで、南部國境を集團的機構に依つて保障せしめ、而して極東進出に全力を擧げるに都合のよい情勢を作らんとし、着々この政策に成功しつゝある。

過般英國皇帝ジョージ五世陛下の御葬儀に際しては、ソ聯政府は特に外務人民委員會長リト

ヴィノフ氏と陸軍次官トハチフスキー元帥を派し、これに會葬せしめた上、ロンドンに於て英國政府と折衝を續け、遂にソ聯の軍備擴充を條件として四千萬磅の長期借款に成功した。

これはソ聯にとつては眞に棚ボタ以上の成功で、これに依つてソ聯は英國と友好關係を濃厚にすると共に、軍備を擴充出来るし、英國はソ聯の強化に依つて日本を牽制し、東洋に於て、特に支那に於て漁夫の利を占める一方、ソ聯へ軍需品の賣却に依つて自國の軍需インフレに拍車をかける事が出来ること云ふ算段である。

ソ聯は更に佛國とは古い友好關係を持續してゐる。

フランスは獨逸包圍政策の一環としてソ聯の北方の抑へを期待し、ソ聯は同じく、ヒットラーの赤化攻撃の牽制として佛國と提携してゐる。

然しソ聯としても、餘りに佛國との緊密の度を濃厚ならしめたならば、徒らに獨逸の神經を尖らせることとなり、かくすることは却つて不利な立場を作る故に、それらをも熟慮し、政策しつゝある。



フランダン佛外相は、ソ聯の軍事的背景を利用し、中歐集團保障機構の擴充工作に大活動中であるが、之に對して赤軍首脳部は極東に於ける對日危機の切迫を重大視するの餘り、今後若し歐洲に戦争が勃發しても、赤軍はこの渦中に投ずる事が出来ないと言ふ意志を表示したと傳へられる。

即ち佛國の提唱する新ダニューブ同盟にソ聯が参加する事は塊國獨逸の後見役であつて、イタリーの役割をソ聯が買つて出ることには過ぎず、徒らに獨逸の反感を挑發し、その對ソ進撃を刺戟するのみであると云ふ立場を取り、赤軍が歐洲に於ける對獨軍事冒險に乗り出すことは絶對であると云ふのである。

今やソ聯首脳部の意見はこの大勢を支持して、佛國との確約を曖昧にすると共に、獨逸にも適度の秋波を送りつゝ、その西部國境の集團的保障を確立し、後顧の憂へなく、かくして今、猛烈な極東政策に乗り出してゐるのである。

かくして極東にくり擴げられる社會主義對資本主義の一大決戦期は迫りりの感深きものがあ

る。實にソ聯はこの日のために準備し、軍備を擴充してゐると云つても過言でなからう。こゝにソ聯極東政策の最後の指標が置かれてゐる。



昭和十一年二月廿九日印刷納本  
昭和十一年三月一日發行

版權所有  
不許複製

ソヴェート・ロシアの

對日工作を暴く

定價拾錢 送料貳錢

著者 櫻木徹二

發行兼印刷者 楠 駿 二

印刷所 中橋印刷所

發行所 さんもん書房

電話銀座 四七二〇・四八二四番

取次店 東京市麴町區有樂町二ノ二 森田書房 大阪市北區堂島上二丁目二十五 新正堂書店

東京市内で一番よく賣れる

# 讀賣新聞

東京座 讀賣新聞社

特約店 東京鐵道局認 鐵道保養會  
(鐵道各驛一スムンタ手販賣)



# はれやか

頭の栄養剤

精力は 試験は  
 強勉 試  
 酔日二・眠不

こんな時、めつきり元気がなくなつたり、頭が痛んだり、重苦しく感じるのは、頭脳に燐、カルシウムの栄養素が不足した何よりの證據です。それを、そのまま放置して度重ねたり、従來の由々しい副作用を持つた頭痛薬を用ひると、早老を招き、或は慢性の頭痛、神経衰弱、ヒステリーに苦しみ、または胃腸、心臓機能の障害等で一生困らねばならぬことになりま

「頭の栄養剤はれやか」を用ひて、頭脳に不足した燐、カルシウムと共に、頭脳に栄養を充して、心身共に爽快に導き、頭脳は明敏、記憶力は増進します

主 頭痛、齒痛、不眠症、神経衰弱、ヒステリー、疲労恢復、めまひ、二日酔、船暈、胃腸に基づく頭痛

薬價低廉 三十錢・五十錢・二円  
 二円・三円・五円  
 販賣元 是れやか 日獨醫化學研究所  
 東京市京橋區銀座  
 電話(代表)京橋八二五〇番・振替東京三〇〇四三番



不思議なサイコロで

野球が實戰そのまま遊べる  
 超モダンポケット野球

# シキボール

全國野球界に  
 壓倒的大流行!

定價 十錢

全國書店、文具店、文房具店、驛賣店にあり

東日本一手販賣元 森田書房  
 京阪神一手販賣元 新正堂書店  
 中國・四國・九州 一手販賣元 森田書房西部支店

東京麹町有樂町二ノ二 振替東京四二五二  
 大阪北區堂島上二ノ二 振替大阪五〇二九一  
 大阪府豊中町櫻塚一ノ〇六 振替大阪五六一六四

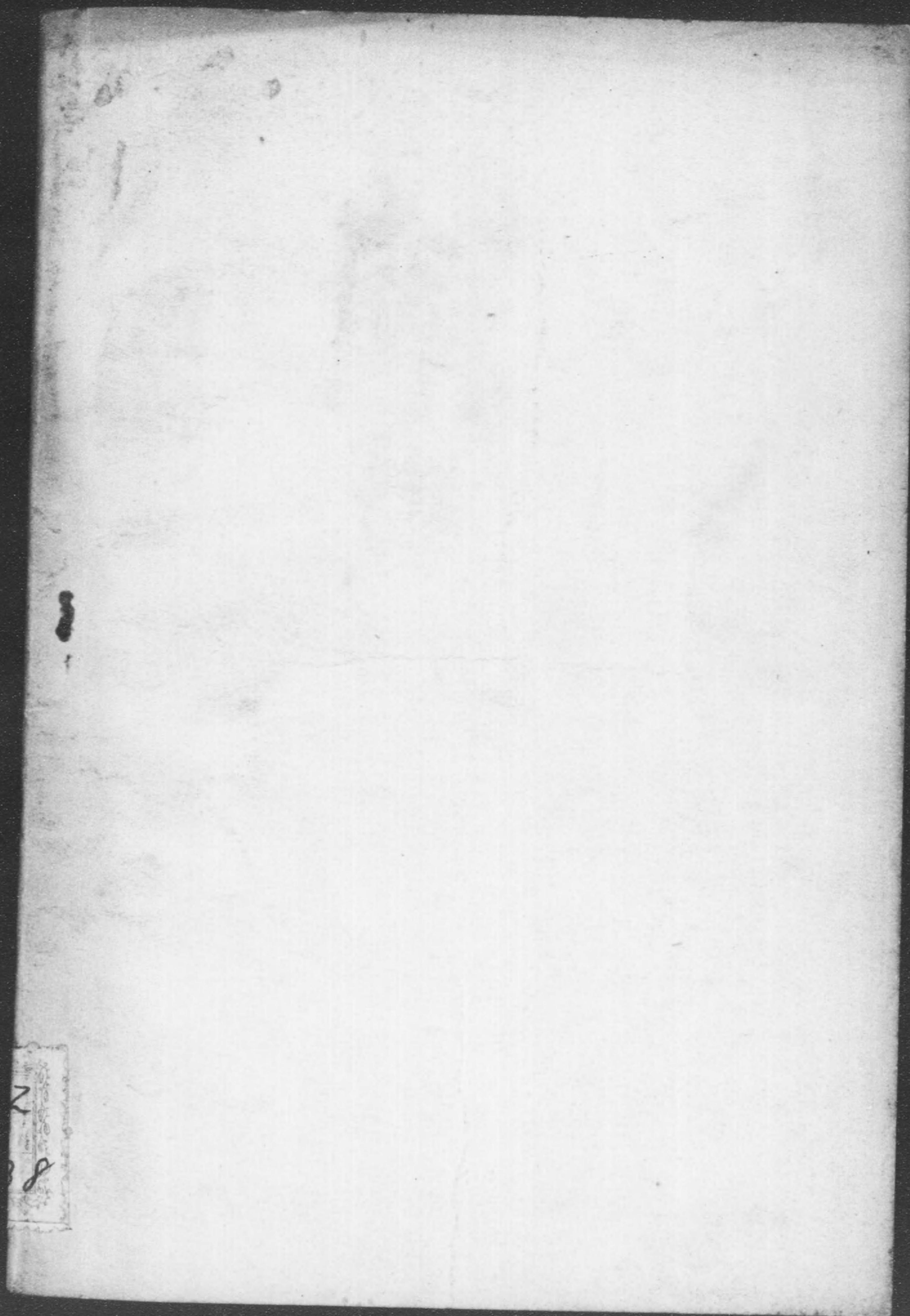


定 價 各 部 一 金 十 錢 送 料 二 錢

農村問題研究會著	石原義治著	青木敏著	友松圓諦著	生方敏郎著	生方敏郎著	阿久津音吉著	楠木淳著	楠木淳著
産業組合を暴露する	良き職業の選擇は 成功への第一歩	自由主義より統制主義へ	邪信に迷ふ人の爲めに	ユームア心理學	漫談論語 特價二十錢	處世指針哲學	世界大戰勃發か	歐外交戰線に 躍る
								群 雄

東京市麴町二區 房書んもんさ 電話銀座 四一七〇番 四二八四番





2  
8